

令和4年度(2022年度)

環境活動レポート

エコアクション21

(活動期間 令和4年4月～令和5年3月)

有限会社 プライムクリエイト

作成日 令和5年5月29日

改訂日 令和5年6月30日

組織の概要

事業所名	有限会社 プライムクリエイト		
代表者名	代表取締役 大木 高典		
所在地	茨城県水戸市大塚町247-1		
連絡先	Tel	029-255-3335	Fax 029-254-6080
	URL	http://www.primecreate.com	E-mail info@primecreate.com
事業内容	廃棄物の収集運搬業務		
設立年月日	平成3年11月19日		
資本金	1,300万円		
売上高	621.8 百万円（令和3年11月～令和4年10月）		
従業員数	20 人		
延床面積	329平方メートル(事務所 162平方メートル)		
駐車場面積	1,535平方メートル		
保有運搬車両	16台(令和5年6月現在)		
	2tパネル車	1台	2tクレーン車 1台
	3tパッカー車	1台	3tクレーン車 2台
	4tパッカー車	1台	4t平ボディ車 1台
	4tアームロール車	4台	4tクラム車 1台
	10tアームロール車	2台	6tクラム車 1台
	10tダンプ車	1台	

保有許可

【産業廃棄物収集運搬業】

都道府県 市町村	許可年月日 有効年月日	燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック類	紙くず	木くず	繊維くず	動植物性残さ	ゴムくず	金属くず	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	鉍さい	がれき類	ばいじん
茨城県	00801025295 令和4年11月7日 令和11年11月6日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○
栃木県	0900025295 令和2年3月10日 令和6年8月26日	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○		○	○
千葉県	01200025295 令和元年12月16日 令和6年11月24日		○	○			○	○	○	○	○		○	○		○	
埼玉県	01107025295 令和4年1月27日 令和9年1月9日	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○		○	
福島県	00707025295 平成30年8月30日 令和5年8月5日	○	○				○	○	○	○			○	○		○	
宮城県	00400025295 平成30年8月8日 令和5年8月7日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○
東京都	13-00-025295 令和元年12月20日 令和6年12月19日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

【特別管理産業廃棄物収集運搬業】

都道府県	許可番号 許可年月日 有効年月日	廃油	廃酸	廃アルカリ	感染性産業廃棄物	廃石綿等
茨城県	00851025295 令和4年11月7日 令和14年11月6日	○	○	○	○	○
栃木県	00950025295 平成30年11月14日 令和5年11月13日	○	○	○		
宮城県	00450025295 平成30年8月8日 平成35年8月7日	○	○	○		

※ 特別管理産業廃棄物収集運搬業の茨城県の許可に関して茨城県の発行した許可書のまま記載

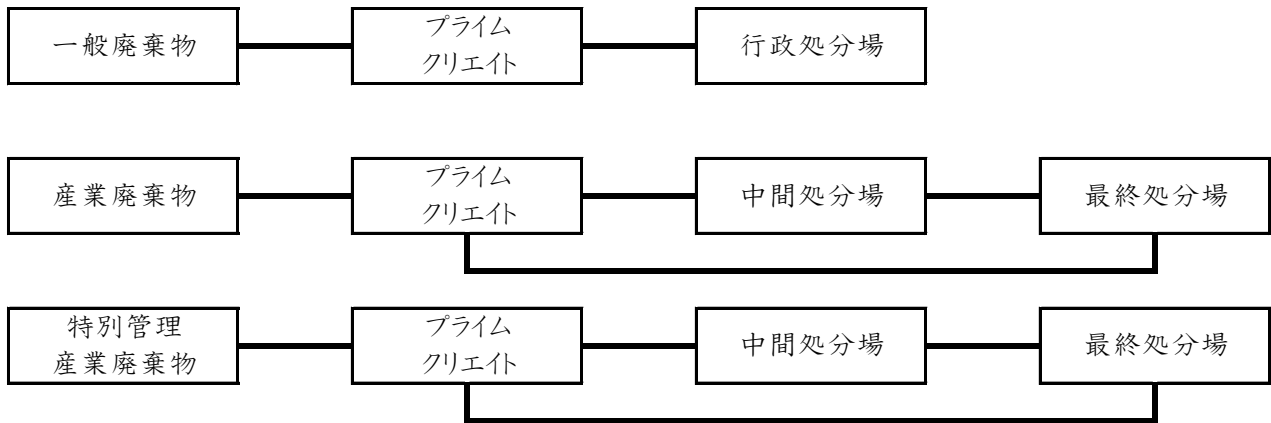
【一般廃棄物収集運搬業】

市町村	許可の年月日	許可の有効年月日	許可番号
水戸市	令和2年4月1日	令和4年3月31日	指令第118-35号
	令和4年4月1日	令和6年3月31日	指令第100号
常陸大宮市	令和2年3月25日	令和4年3月24日	指令第12号
	令和4年3月25日	令和6年3月24日	指令第11号
那珂市	令和2年3月25日	令和4年3月24日	指令第135号
	令和4年3月25日	令和6年3月24日	指令第3号

事業計画の概要

一般廃棄物・産業廃棄物の収集運搬業務において、事業者の分別排出の協力を得て、再資源化のために可能な限りの分別回収・運搬に努めます。

廃棄物の流れ



受託した一般廃棄物処理量

令和4年4月～令和5年3月 総処理量	367.5 t
那珂市・常陸大宮市	89.0 t
水戸市	282.4 t

受託した産業廃棄物処理量

令和4年4月～令和5年3月 総処理量	13,954.7 t
木くず	2,325.7 t
廃プラスチック	1,294.9 t
がれき類	2,357.3 t
ガラス・コンクリートくず及び陶磁器くず	2,688.8 t
混合廃棄物	2,333.1 t
その他の産業廃棄物	2,954.9 t

受託した特別管理産業廃棄物処理量

特別管理産業廃棄物	164.5 t
感染性	116.6 t
廃油	47.9 t

対象範囲(認証・登録範囲)

有限会社 プライムクリエイト

茨城県水戸市大塚町247-1

廃棄物の収運にかかわる業務の全組織・全活動を対象

レポートの対象期間

期間 令和4年4月1日 ～ 令和5年3月31日

レポートの作成日・修正日

作成日 令和5年5月29日

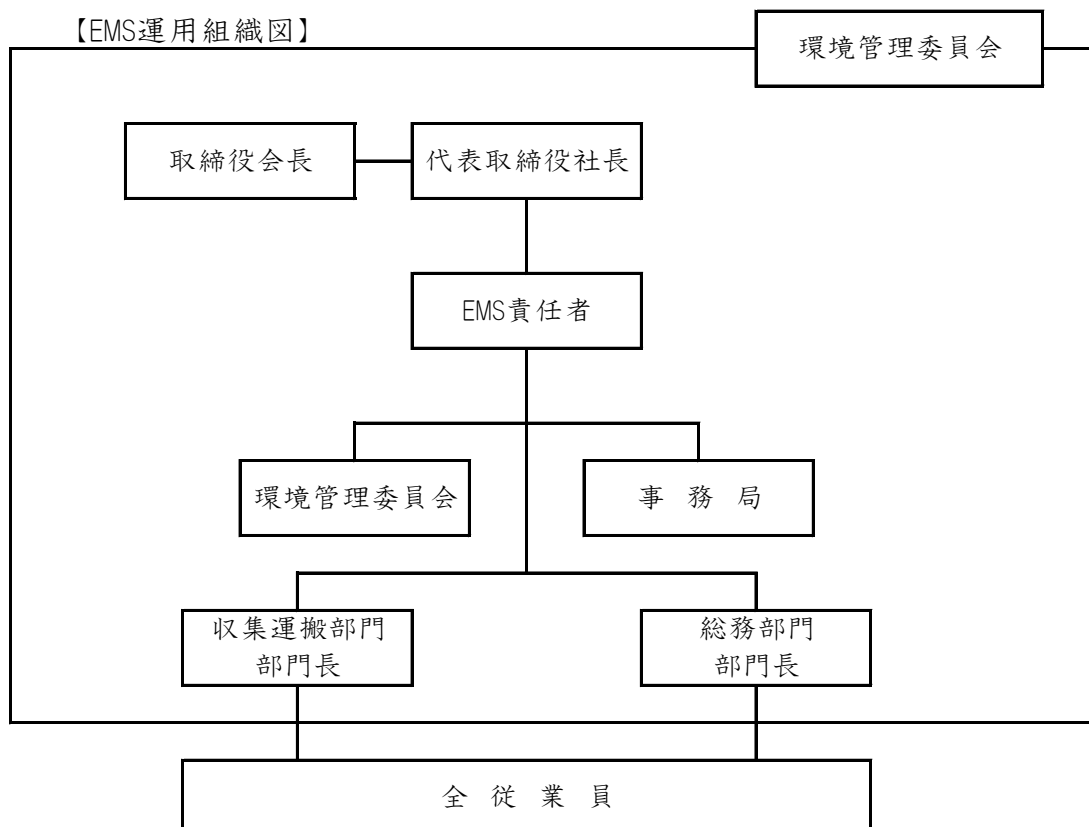
改訂日 令和5年6月30日

環境保全関係の責任者及び担当者

EMS責任者 高安 隆

事務局 新原 晋

EMS実施体制



環境方針

基本理念

有限会社プライムクリエイトは、廃棄物の収集運搬業務を行うにあたり循環型社会システムの構築に貢献することを目的とし、環境への負荷を削減し地球環境の保全に積極的に取り組むために以下の方針を定め、実施し、維持します。

基本方針

1. 環境関連法規等を遵守し、環境汚染の防止に努めます。
2. 環境負荷の削減のため以下の活動に積極的に取り組みます。
 - 温室効果ガス排出量の削減
 - 廃棄物発生量の削減
 - 排水量の削減
 - 産業廃棄物排出事業者への分別排出の推進
3. 全従業員の環境に対する意識の向上を図るため環境教育を実施します。
4. 環境マネジメントシステムの維持向上のため継続的な改善に努めます。
5. 環境方針は全従業員に周知徹底し、一般の人々にも開示します。

2022年4月1日 改定

有限会社 プライムクリエイト

代表取締役 大木 高典

環境目標

目標項目		基準値(2年度実績)	3年度目標	4年度目標	5年度目標
二酸化炭素排出量削減		407,853kg-CO2	422,806	422,168	422,168(仮)
			103.67%	103.51%	103.51%
軽油 R1・2年度平均	大型 車両	燃費 3.80km/ℓ	3.80km/ℓ	3.99km/ℓ	3.99km/ℓ(仮)
	中型 車両	燃費 6.42km/ℓ	前年度実績	前年度実績	前年度実績
ガソリン目標 +	ガソリン	5,735.44 ℓ	5,844.0 ℓ	5,834.0 ℓ	5,824.0 ℓ
			1・2年度実績の平均	3年度目標の-10.0ℓ	3年度目標の-20.0ℓ
灯油目標 +	灯油	180.0 ℓ 維持管理	180.0 ℓ	180.0 ℓ	180.0 ℓ
			100.0%	100.0%	100.0%
電気目標	電気	18,312.0 kWh	18,335.0 kWh	18,310.0 kWh	18,285.0 kWh
			1・2年度実績の平均	3年度目標の-25.0kWh	3年度目標の-50.0kWh
社内廃棄物(可燃物) 排出量の削減		目標 174.0kg	168.0 kg	165.0 kg	162.0 kg
		実績 165.5kg	-6.0kg	-9.0kg	-12.0kg
排水量の削減 (水道使用量)		目標 420.0m ³	414.0 m ³	413.0 m ³	412.0 m ³
		実績 415.0m ³	-6.0m ³	-7.0m ³	-8.0m ³
受託した産業廃棄物の 混合廃棄物割合の削減		目標 29.0%	28.5%	28.0%	27.5%
		実績 27.2%	-0.5%	-1.0%	-1.5%

目標設定

CO2 CO2排出量の目標は、各項目の目標の合計。

5年度は軽油使用量を前年度実績としているため仮目標となる。

燃費 古い車の経年劣化・新車の安全装置や環境装置の装着による車重増のため燃費が伸びずらく燃費向上を目指す。5年度の目標としては前年度実績とする。

ガソリン 4年度・5年度は3年度目標からの削減。

灯油 年間(冬期)使用量180ℓの維持管理。

電気 3年度目標を設定。4年度・5年度は3年度目標からの削減。

社内 5年度も2年度目標からの削減。

廃棄物

排水量 2年度目標からの削減。5年度も2年度目標からの削減。

混廃割合 2年度目標からの削減。5年度も2年度目標からの削減。

受託した産業廃棄物の混合廃棄物割合 混廃量÷産廃量=混廃割合(%)

この目標での産廃量とは (紙くず・木くず・廃プラスチック・がれき類・金属くず・ガラスくずコンクリートくず及び陶磁器くず・コンクリートがら)+(混廃)としています。

環境活動計画

1) 二酸化炭素排出量の削減

- 軽油 - 走行時の過度なスピードアップ・作業時のアイドルアップを行わない
- ガソリン - 効率の良いルートを選択
- 灯油 - ストープ使用時の扇風機の使用(空気循環)
- 電気 - エアコンの設定温度の徹底

2) 社内廃棄物排出量の削減

使用済み用紙の資源排出

3) 排水量(水道使用量)の削減

効率の良い洗車

4) 受託した産業廃棄物の混合廃棄物割合の削減

排出事業者への分別排出の勧め

環境目標の実績

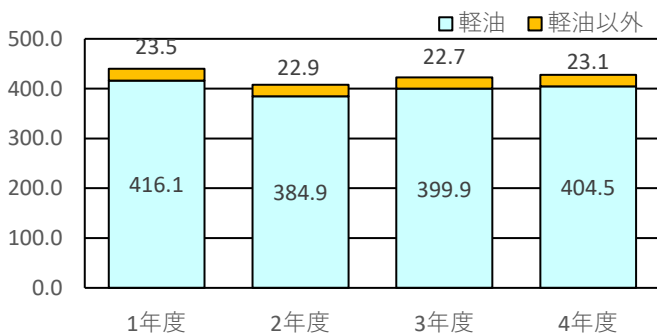
1) 二酸化炭素排出量の削減

	2年度実績	3年度実績	4年度実績	5年度実績
二酸化炭素(kg-CO2)	407,853	422,631	427,576	
前年度実績比	96.9%	103.6%	98.8%	
軽油 kg-CO2 = 0 × 2.62434	146,678.0 0	152,395 0	154,139.0 0	
	384,933	399,936	404,513	
ガソリン kg-CO2 = 0 × 2.32166	5,735.44 0	5,824 0	6,012.07 0	
	13,316	13,522	13,958	
灯油 kg-CO2 = 0 × 2.49193	180.0 0	180 0	180.0 0	
	449	449	449	
電気 排出係数	18,311.6 kWh	19,389 kWh	19,238.4 kWh	
	0.50000	0.450	※0.44993	
kg-CO2 = kWh × 係数	9,156	8,724	8,656	

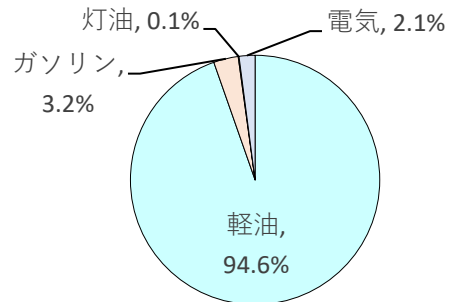
※電気 使用電力会社①社 + ②社 0.4499253 ÷ 排出係数0.44993

	2年度実績	3年度実績	4年度実績	5年度実績
大型車両燃費	3.80km/0	3.99km/0	4.12km/0	
中型車両燃費	6.42km/0	6.35km/0	6.45km/0	
全車両燃費	5.29km/0	5.19km/0	5.42km/0	

二酸化炭素排出量(t-CO2)



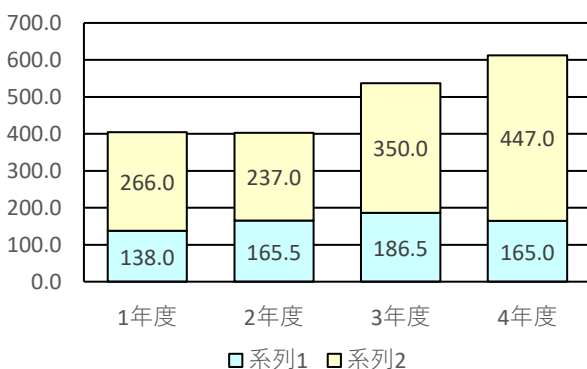
4年度二酸化炭素排出量割合



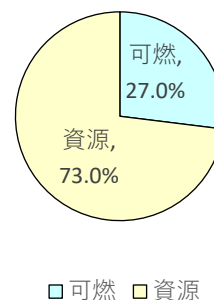
2) 社内廃棄物排出量の削減

	2年度実績	3年度実績	4年度実績	5年度実績
可燃物排出量	165.5kg	186.5kg	165.0kg	
前年度比	119.9%	112.7%	88.5%	
割合	41.1%	34.8%	27.0%	
資源物排出量	237.0kg	350.0kg	447.0kg	
前年度比	89.1%	147.7%	127.7%	
割合	58.9%	65.2%	73.0%	
社内廃棄物合計	402.5kg	536.5kg	612.0kg	
前年度比	99.6%	133.3%	73.0%	

社内廃棄物排出量(kg)



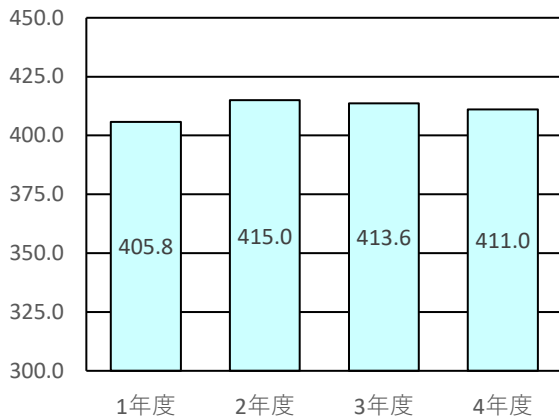
4年度社内廃棄物排出量割合



3) 排水量(水道使用量)の削減

	2年度実績	3年度実績	4年度実績	5年度実績
水道使用量	415.0 m ³	413.6 m ³	411.0 m ³	
前年度実績比	102.3%	99.7%	100.6%	

3年度排水量＝使用量(m³)

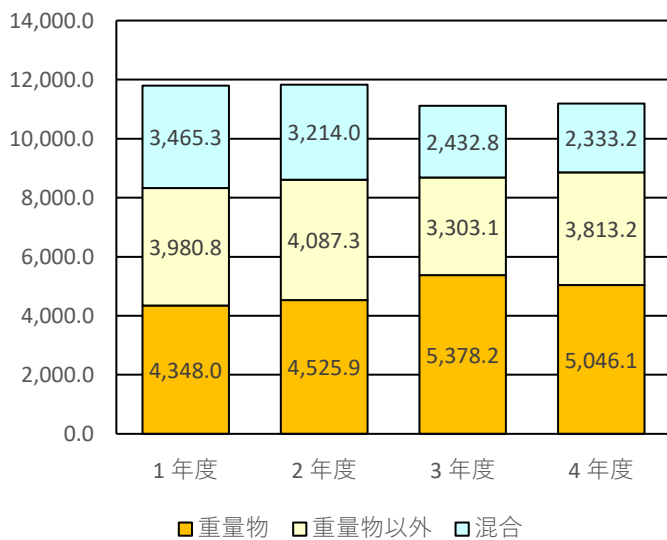


4) 受託した産業廃棄物の混合廃棄物割合の削減

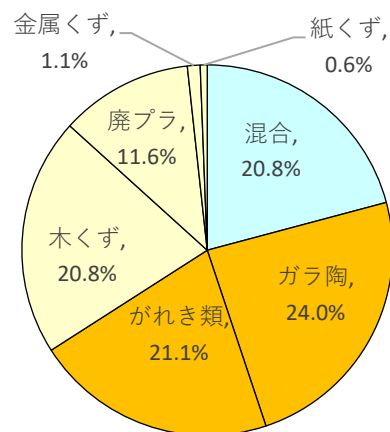
	2年度実績	3年度実績	4年度実績	5年度実績
混廃割合 (混廃量÷産廃量)	27.2%	21.9%	20.8%	
産廃量	11,827.1 t	11,114.2 t	11,192.4 t	
前年度実績比	142.0%	94.0%	100.7%	
混廃量	3,214.0 t	2,432.8 t	2,333.2 t	
前年度実績比	92.7%	75.7%	95.9%	

※産廃量＝(紙くず・木くず・廃プラスチック・がれき類・金属くず・ガラ陶)+(混廃)

産業廃棄物(混廃)運搬量(t)



4年度産業廃棄物運搬割合



環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

1)二酸化炭素排出量の削減	目標 422,167.6kg-CO2	実績 427,575.6kg-CO2	達成率 98.7%	×
---------------	-----------------------	-----------------------	--------------	---

※ 達成率 = 目標 ÷ 実績 達成 = 「○」未達成 = 「×」

環境活動計画	結果	評価	来年度の取組
軽油 過度な走行時のスピードアップ・作業時のアイドルアップを行わない	行われました。	○	過度な走行時のスピードアップ・作業時のアイドルアップを行わず、使用量の削減に努めます。
ガソリン 効率の良いルートを選択	行われましたが目標未達。	△	効率の良いルートを選択し、使用量の削減に努めます。
灯油 ストーブ使用時の扇風機の使用 (空気循環)	行われました。	○	活動継続。使用量の維持、削減に努めます。
電気 エアコンの設定温度の徹底	行われましたが目標未達。	△	活動継続。エアコンの設定温度を徹底し、使用量の削減に努めます。

燃費の悪い大型車両の稼働(距離)が減り、目標を達成している中型車増えたことで良い結果となった。
活動は行ってきたが、年度後半営業に動く人員(時間)が増えたことで使用量が増えてしまった。
電気は目標未達で終わったが前年度と比較では150kWhの削減となった。

評価基準「○」=目標達成 「×」=目標未達成

「△」=目標未達成だが一部活動の評価が認められた場合(前年目標達成など)

2)社内廃棄物(可燃物)排出量の削減	目標 165.0 kg	実績 165.0 kg	達成率 100.0%	○
--------------------	----------------	----------------	---------------	---

※ 達成率 = 目標 ÷ 実績 達成 = 「○」未達成 = 「×」

環境活動計画	結果	評価	来年度の取組
使用済み用紙の資源排出	行われました。	○	活動継続。使用済み用紙の資源化を強化し、可燃物排出量の削減に努めます。

11月に累計での目標が未達成となり2月まで続いたが、年度末3月で達成へとこぎつけた。
資源物は60%に届かなった月が3回あるが、四半期ではすべてクリアしたため目標達成。

3)排水量(水道使用量)の削減	目標 413.0 m ³	実績 411.0 m ³	達成率 100.5%	○
-----------------	----------------------------	----------------------------	---------------	---

※ 達成率 = 目標 ÷ 実績 達成 = 「○」未達成 = 「×」

環境活動計画	結果	評価	来年度の取組
効率の良い洗車	行われました。	○	活動継続。来年度も効率良く洗車を行い、排水量削減に努めます。

前年度からの削減を維持できた。

評価基準「○」=目標達成 「×」=目標未達成

「△」=目標未達成だが一部活動の評価が認められた場合(前年目標達成など)

環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

4)受託した産業廃棄物の収集運搬量 混廃物の割合	目標 28.0%	実績 20.8%	達成率 134.6%	○
-----------------------------	-------------	-------------	---------------	---

※ 達成率 = 目標 ÷ 実績

環境活動計画	結果	評価	来年度の取組
排出事業者への分別排出の勧め	行われました。	○	来年度も引き続き排出事業者への分別排出推進を行っていきます。

混廃が減り分別可能品が増えたため混廃割合が21.9%から20.8%と減った。

木くずが583t増えたことが良い結果へとつながった。

評価基準「○」=目標達成 「×」=目標未達成

「△」=目標未達成だが一部活動の評価が認められた場合(前年目標達成など)

環境関連法規等の遵守状況

廃棄物処理業関連法規等の名称 (一般廃棄物・産業廃棄物・特別管理産業廃棄物)	遵守事項	遵守状況
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	許可申請・更新	○
	適正処理	○
	帳簿の記載・保存	○
	名義貸し禁止	○
	委託禁止	○
	管理票の携帯・送付・保存	○
茨城県廃棄物の処理の適正化に関する条例	事業報告書作成・提出	○
茨城県廃棄物処理要項	産業廃棄物収集運搬車両の表示・許可証の備付	○
水戸市廃棄物の減量及び適正処理等に関する条例	一般廃棄物処理業許可関連	○
那珂市廃棄物の処理及び清掃に関する条例	一般廃棄物処理業許可関連	○
常陸大宮市廃棄物の処理及び清掃に関する条例	一般廃棄物処理業許可関連	○
千葉県県外産業廃棄物の適正処理に関する指導要綱	県外産業廃棄物の県内処分の事前協議関連	○
埼玉県県外産業廃棄物の適正処理に関する指導要綱		○
埼玉県県外産業廃棄物事前協議制度		○
栃木県県外産業廃棄物の最終処分に関する指導要綱		○
福島県産業廃棄物等の処理の適正化に関する条例		○
非飛散性アスベスト廃棄物の適正処理 石綿含有廃棄物等処理マニュアル(第3版)	非飛散性アスベスト廃棄物に含まれるアスベストの飛散防止	○

※遵守=○ 違反=×

環境関連法規等の遵守状況

環境関連法規等の名称	遵守事項	遵守状況
エネルギーの使用の合理化に関する法律	消費性能等が優れている車両の使用・合理的な運転又は操縦	○
水質汚濁防止法	汚水又は廃液による公共用水域又は地下水の水質の汚濁の防止	○
浄化槽法	保守点検・清掃	○
茨城県浄化槽指導要綱		
自動車から排出される窒素酸化物及び粒子状物質の特定地域における総量の削減等に関する特別措置法	排出の抑制のために必要な措置を講ずる	○
道路交通法	道路における危険を防止・運転免許証の更新	○
道路運送車両法	点検整備・自動車検査証の交付	○

※遵守＝○ 違反＝×

違反、訴訟等の有無

環境関連法規の違反・指導等はありませんでした。
訴訟に関しても同様ありませんでした。

代表者による全体評価と見直しの結果

見直し結果

「実績と中期目標をもとに環境目標の策定」

- 「燃費向上」は車両稼働割合変化により目標値に達しました。
- 「電気使用量削減」は夏季の気温上昇に対応できませんでした。
- 「可燃物削減」は目標通りの数値となりました。

「車両ごとの燃費向上」

- 車両人員の分配がうまくいき、「車両全体」が目標を達成できました。

「冬期のストーブ利用」

- 前年度より電気使用量が削減できましたが、夏場の使用量が増加してしまいました。

「社内資源物割合増」

- 可燃物を削減することができ、資源物割合を増やすことができました。

評価

軽油は大型車両(低燃費車)の稼働割合減により車両全体の高燃費化できました。

電気は猛暑による気温上昇でエアコンの使用量が増え、冬場の使用量削減を目指しましたが、目標達成には至りませんでした。暑い時期と寒い時期にどれだけ使用量を削減できるかを常に模索していく必要があります。

人員不足は社会問題にもなっていますが、収集運搬業者は顕著に仕事に影響が出てしまい社員に負担をかけてしまっているものもあります。

社員に多くの負担をかけないように人員を確保、定着、教育による仕事の効率化を図り、環境活動を継続して目標を達成できるよう邁進してまいります。